

令和 8 (2026)年度

シラバス

- 4 年次 -

科目No.	FCM11-4R		授業形態	講義	開講年次	4年次
授業科目名	統合基礎臨床医学 (PT・OT)		担当教員 E-Mail	岡田 守弘		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法	臨床医学、疾病の原因と治療		必修	1単位	後期(30h)
	作業療法					
教員の実務経験と授業内容の関連	臨床医学系内容については内科、精神科、整形外科、脳神経外科の各専門医で臨床経験10年以上の教員が、その経験を活かして過去問題なども題材にして講義する。					
授業内容の要約	4年間の基礎専門科目系の総まとめとして、2専攻に共通する基礎・臨床医学系領域の知識の理解を深くかつ確実にする。基礎医学系では、人体の構造と機能、病態を、臨床医学系では生活習慣病、脳卒中、脊髄損傷、認知症、癌、喫煙、多重障害などのアプローチから診断、治療、術後リハビリなどについて、診療科ごとに検討し、過去における国家試験問題等を講義材料として、学修するとともに最新の医療動向、臨床現場でのチームワークの重要性などについても理解する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎・臨床医学領域の関連性について理解を深めることができるようになる 2. 各基礎・臨床領域科目の知識を理解し、専門領域科目に応用できるようになる 3. 基礎および臨床医学領域の国家試験問題が理解できるようになる 					
対面授業の 進め方	専門の担当者によるオムニバス方式で講義する。国家試験過去問題を講義資料として、傾向と対策、出題の意図を解説する。 医学用語の定義を身につけること。また、各科目の知識を関連付けて理解すること。					
遠隔授業の 進め方	Teams 及び Stream を利用し、課題も Teams-Form で進める。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 生理学 (坪田) /筋生理学 (筋収縮エネルギー、興奮収縮連関、筋反射と筋感覚)				該当科目の総復習も進めること		
2. 生理学 (坪田) /筋生理学 (神経筋と運動単位)、神経生理学 (細胞の興奮と伝達、自律神経、神経回路)				該当科目の総復習も進めること		
3. 解剖学 (大籠) /呼吸器系 (肺区分)、循環器系 (栄養吸収循環路、側副循環、リンパ管系)				該当科目の総復習も進めること		
4. 解剖学 (大籠) /運動器系 (骨代謝、筋・関節と運動)、内分泌、泌尿器系				該当科目の総復習も進めること		
5. 解剖学 (大籠) /神経系 (中枢神経、伝導路、末梢神経)				該当科目の総復習も進めること		
6. 運動学 (岡、白岩) /運動学習、上肢下肢体幹関節の運動、歩行				該当科目の総復習も進めること		
7. 病理学 (中村) /炎症、感染症、腫瘍				該当科目の総復習も進めること		
8. 精神医学 (堺) /国試既出の精神疾患を中心に、精神医学の範囲を総復習する				該当科目の総復習も進めること		
9. 内科学 (岡田) /循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、代謝疾患、内分泌疾患				該当科目の総復習も進めること		
10. 内科学 (岡田) /膠原病アレルギー疾患、感染症、リハ概論/ICF、医療安全、ノーマライゼーション				該当科目の総復習も進めること		
11. 整形外科 (村越) /慢性関節疾患、脊椎・脊髄疾患、脊髄損傷				該当科目の総復習も進めること		
12. 整形外科 (村越) /骨折、外傷、末梢神経損傷				該当科目の総復習も進めること		
13. 臨床心理学 (堺) /防衛機制、心理療法等を中心に国試頻出範囲を総復習する。				該当科目の総復習も進めること		
14. 脳神経系 (新谷) /脳の解剖生理、神経疾患の臨床診断と治療				該当科目の総復習も進めること		

15. 定期試験 (単位認定試験として別に定める日程で実施する)					
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100 %	□その他 %
	基準等			定期試験は国試形式問題を出題する。範囲・問題数は、授業科目および担当回数によって算出する	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
		各関連科目の教科書			
参考図書		国家試験参考書等			
履修要件等	4年前期までの全ての科目を履修済であることが望ましい				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第15研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 16:20~17:50	

科目No.	FCM12-4R		授業形態	講義	開講年次	4年次
授業科目名	統合基礎臨床医学 (ST)		担当教員 E-Mail	岡田 守弘		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	臨床医学系内容については内科、精神科、整形外科、脳神経外科の各専門医が、その臨床経験を活かして過去問題なども題材にして講義する。					
授業内容の要約	4年間の基礎専門科目系の総まとめとして、基礎・臨床医学系領域の知識の理解を深くかつ確実にする。基礎医学系では、人体の構造と機能、病態を、臨床医学系では生活習慣病、脳卒中、脊髄損傷、認知症、癌、喫煙、多重障害などのアプローチから診断、治療、術後リハビリなどについて、診療科ごとに検討し、過去における国家試験問題等を講義材料として、学修するとともに最新の医療動向、臨床現場でのチームワークの重要性などについても理解する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎・臨床医学領域の関連性について理解を深めることができるようになる 2. 各基礎・臨床領域科目の知識を理解し、専門領域科目に応用できるようになる 3. 基礎および臨床医学領域の国家試験問題が理解できるようになる 					
対面授業の 進め方	専門の担当者によるオムニバス方式で講義する。国家試験過去問題を講義資料として、傾向と対策、出題の意図を解説する。 医学用語の定義を身につけること。また、各科目の知識を関連付けて理解すること。					
遠隔授業の 進め方	Teams 及び Stream を利用し、課題も Teams-Form で進める。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 生理学 (坪田) / 神経生理学 (細胞の興奮と伝達、自律神経、神経回路)			該当科目の総復習も進めること			
2. 生理学 (坪田) / 代謝と酸塩基平衡			該当科目の総復習も進めること			
3. 生理学 (坪田) / 呼吸調節、循環調節			該当科目の総復習も進めること			
4. 解剖学 (大籠) / 呼吸器系 (咽頭、喉頭)、発生			該当科目の総復習も進めること			
5. 解剖学 (大籠) / 神経系 (中枢神経、脳地図、特殊伝導路)			該当科目の総復習も進めること			
6. 解剖学 (大籠) / 神経系 (末梢神経系、脳神経と脳幹)			該当科目の総復習も進めること			
8. 精神医学 (堺) / 国試既出の精神疾患を中心に、精神医学の範囲を総復習する			該当科目の総復習も進めること			
8. 精神医学 (堺) / 国試既出の精神疾患を中心に、精神医学の範囲を総復習する			該当科目の総復習も進めること			
9. 内科学 (岡田) / 循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、代謝疾患、内分泌疾患			該当科目の総復習も進めること			
10. 内科学 (岡田) / 膠原病アレルギー疾患、感染症 リハ概論/ICF、医療安全、ノーマライゼーション			該当科目の総復習も進めること			
11. リハビリテーション医学 (新谷) / リハビリテーション評価、廃用性症候、片麻痺			該当科目の総復習も進めること			
12. 病理学 (中村) / 遺伝性疾患、腫瘍			該当科目の総復習も進めること			
13. 脳神経系 (新谷) / 脳の解剖生理			該当科目の総復習も進めること			
14. 脳神経系 (新谷) / 神経疾患の臨床診断と治療			該当科目の総復習も進めること			
15. 定期試験 (単位認定試験として別に定める日程で実施する)						

成績評価方法	項目	□ 課題・小テスト %	□ レポート %	■ 定期試験 100%	■ その他 %
	基準等			定期試験は国試形式問題を出題する。範囲・問題数は授業科目および担当回数によって算出する	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
		各関連科目の教科書			
参考図書		国家試験参考書等			
履修要件等	4年前期までの全ての科目を履修済であることが望ましい				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第15研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 16:20~17:50	

科目No.	FHW03-4E, FHW02-4R, FHW03-4R		授業形態	講義	開講年次	4年次
授業科目名	関係法規		担当教員 E-Mail	野村 和樹		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	保健医療福祉とリハビリの 理念		選択必修	1単位	後期(16h)
	作業療法学			必修		
	言語聴覚学	保健医療福祉				
ヘルスプロモーション						
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	<p>医療に専門職として従事するという事は、国民の生命や健康に影響を与える仕事に就くことを意味するとともに公共性の高い職業に従事することである。したがって、様々な法律により規制されている。臨床場面において求められる基礎知識として医療、福祉の領域の法令について、理念・目的・主要な制度の理解をはかる。</p> <p>医療に従事する専門職の根拠法を学修することで多職種についての理解が深まり、また、多岐にわたる領域の法律を学ぶことにより、多職種との協力が円滑に行える。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の専門職としての法的責務が理解できる 2. 医療・福祉に関わる法の種類と立法過程が理解できる 3. 医療・福祉に関わる法の基本的内容とその特徴が理解できる 					
対面授業の 進め方	講義形式で授業を進める。学生が自ら調べるといった課題を与える。教科書は用いずレジュメを配布し授業を進めるので、A4版のファイルを用意すること。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、時間割にある対面授業の時間に、ライブにて遠隔授業を行う。通信障害、正当な理由により、その時間に受講できなかった場合は、登校された際に録画DVDを貸し出し、学内で視聴すること。したがって、原則授業の進め方は対面授業に同じ。レジュメについては、登校される日に配付。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 法律とは				法規についてまとめること		
2. リハビリテーションに関わる専門職を定めて法律				学生が専攻する専門職の法律についてまとめること		
3. 医療に関わる法律 (医療法, 医師法, 保健師助産師看護師法, 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等)				それぞれの法律の要点を整理すること		
4. 社会福祉に関わる法律 社会福祉法, 虐待の防止に関わる法律				社会福祉法に記されている社会事業を整理すること・虐待を防止する法律の整理		
5. 障がい者福祉施策に関わる法律 障害者基本法・障害者総合支援法等				障害者総合支援法についてまとめること		
6. 高齢者福祉領域に関わる法律 介護保険法				介護保険法についてまとめること		
7. 児童福祉に関わる法律 児童福祉法, 児童の権利に関する条約等				児童に関わる法律についてまとめること		
定期試験 (期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	□小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%
	基準等					□その他 %
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	各項目に応じてレジュメを配布する					
参考図書	講義内で適宜紹介する					

履修要件等	社会保障制度, 関連職種連携論, 障害者福祉論を受講されていることが望ましい		
オープンな教育リソース			
研究室	1号館4階 第1研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00

科目No.	SGR03-4E, BBS06-4E		授業形態	演習	開講年次	4年次
授業科目名	卒業論文		担当教員 E-Mail	中村 美砂 / 卒業論文担当教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	卒業研究		選択必修	2単位	後期(30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
ヘルスプロモーション	科学的思考の基礎					
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	演習形式により研究課題について関連する分野の基礎及び専門分野の教員から、指導を受ける。指導教員のもとで研究テーマに沿って、実験計画、実験あるいは調査、文献検索、論文作成など研究論文の作成を学修する。科学論文の書き方、文献の収集方法、論理的な説明の仕方などを学ぶ。論文内容、取り組み過程、今後の発展性などを総合的に評価する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の主張や発見を客観的に記述できる 2. 科学的な表現能力を理解できる 3. 研究結果を論文としてまとめることができる 					
対面授業の 進め方	担当教員のもとで研究テーマに沿って、論文を仕上げる。					
遠隔授業の 進め方	Teams やメールによる担当教員の指導のもとで研究テーマに沿って、論文を仕上げる。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		600分以上
論文作成のスケジュールは、個人によって異なり、かつ、進展にあわせ動的に見直しされることになる。下記に授業計画のモデルケースを示す。				これまで学修してきたことを復習しながら、主体的に目標を達成していく科目であるため、多くは授業時間外学修が主体となる。		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業研究発表会の振り返り 2. 卒論の章立ての決定 3. 原稿の提出とフィードバック 1 4. 原稿の提出とフィードバック 2 5. 原稿の提出とフィードバック 3 6. 原稿の提出とフィードバック 4 7. 完成稿の提出 						
総括及びフィードバック						
成績評価方法	項目	■卒業論文 80%	■執筆態度 20%	□定期試験 %	□その他 %	
	基準等	主査1名(指導教員)および副査2名の計3名が、卒業論文の評価を行う。	主査1名(指導教員)が、執筆態度の評価を行う。			
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	指導教員による紹介					
	各自で決定					
参考図書	白井利明他	よくわかる卒論の書き方 第2版		ミネルヴァ書房	2013	
	大阪河崎リハビリテーション大学	卒業論文執筆要項		—	—	
	文献検索等により必用な文献を得る					

履修要件等	「卒業研究」が履修済みであること。		
オープンな教育リソース			
研究室	各担当教員 研究室	オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー

科目No.	SRP06-4E , SRO07-4E , SRM08-4E , SRE13-4E	授業形態	講義	開講年次	4年次
授業科目名	公衆衛生学	担当教員 E-Mail	古井 透		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション	選択必修	1単位	前期(16h)
	作業療法学				
	言語聴覚学				
ヘルスプロモーション	リハビリテーション学				
教員の実務経験と授業内容の関連	古井透は地方行政の地域保健領域で12年現場経験があり、住民の疾病予防と健康の保持増進を図ってきた。更にその経験生かし、成人脳性麻痺者の二次障害予防をはじめ地域リハビリテーション領域の研究活動を20年間重ね、AACPDMやEACD等で成人期について問題提起し続けてきた。前職University of PittsburghではDian Colinsとリハビリテーション学部2年次「リハビリテーション疫学」を分担し、10年以上米国公衆衛生学会会員として多数の発表もあり、本学で16年間予防的リハビリテーション領域講義も担当してきた。これらの経験から公衆衛生学の講義を行う。				
授業内容の要約	公衆衛生学は、個人および集団の疾病予防と健康の保持増進を図るための学問分野である。個人および集団の健康に影響を与える諸要因を明かすための疫学的研究について解説する。各論として、ライフスタイルと健康、生活習慣病の遺伝・環境要因、発がん予防等について述べる。				
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物質代謝と健康事象の頻度や分布について説明することができる 2. 健康に影響を与える諸要因を検討する方法を説明することができる 3. 疾病予防、健康増進について説明することができる 4. 当事者の人生への重大な被害事象の要因追及と予防方法について自説を形成することができる 				
対面授業の 進め方	教科書・参考書を中心に、適宜パワーポイントを用いて授業を行う。参考情報を紹介するので、リハビリテーションと健康について深めてほしい。毎回終了後、翌日までに必ず課題Formsを提出する。				
遠隔授業の 進め方	パワーポイントをオンデマンドでDLし、毎回の課題Formsを提出する。				
授業計画		授業時間外に必要な学修		20分以上	
1. 痛風、尿酸、プリン体(教科書 p14~24)(リスクへの社会的態度を深堀りする)		物質と疾患予防について所感をまとめる			
2. タバコ、酒、次の目標(教科書 p26~41)健康志向について深堀りする		復習:生活習慣と疾病についての歴史観をノートにまとめる			
3. 血圧、コレステロール、メタボ(何を治療対象とし何を対象にしないか生活習慣病を深堀してみる)(教科書 p58~78)		復習:生活習慣病についてノートにまとめる			
4. がん検診(検診の目的、特性)(教科書 p90~108)		復習:予防医学についてノートにまとめること			
5. 高精度医療とガイドライン(エビデンス論)(教科書 p110~147)		復習:プレジジョンメディシンについてノートにまとめること			
6. EBMとWHO(科学的根拠に基づく医療と世界保健機関、バイアス)(p150~180)		復習:エビデンスについてノートにまとめる			
7. 政策と人権(ハンセン病問題や優生思想から健康についての社会的態度を深堀りする)(教科書 p181~202)		復習:優生保護法についてノートにまとめる			
8. まとめ(病気と健康)		復習:病気と健康についての自分なりの見解をまとめる。			

成績評価方法	項目	<input checked="" type="checkbox"/> 課題・小テスト 80%	<input checked="" type="checkbox"/> レポート 20%	<input type="checkbox"/> 定期試験 %	<input type="checkbox"/> その他 %
	基準等	毎回の課題Formsの百分率の合計を定期試験8割の得点とする。		授業ノートや課題Formsの自由記載内容を評価する	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	大脇 幸四郎	「健康」から生活を守る		生活の医療社	2020
参考図書	福島若葉/関根道和/尾島俊之 監修：日本疫学会	はじめて学ぶやさしい疫学 (改定第4版)		南江堂	2024
	厚生労働統計協会	「国民衛生の動向」2024/2025年版		厚生労働統計協会	2024
	岸玲子	NEW 予防医学・公衆衛生学 改訂第4版		南江堂	2018
履修要件等	教科書(220頁)を読破し、リハビリテーションと健康についての視点を深めたいと望むもの				
オープンな教育リソース	https://youtu.be/bEhflzYJ7to				
研究室	1号館5階 第20研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~12:50	

科目No.	SPM02-4R		授業形態	講義	開講年次	4年次
授業科目名	理学療法管理学Ⅱ		担当教員 E-Mail	畑中 良太		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法管理学		必修	1単位	後期(16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院、職能団体、養成校において管理経験を持つ教員が、その経験を生かして、理学療法管理についての考え方について講義する。					
授業内容の要約	本学のディプロマ・ポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる人」を達成するための科目である。教育課程における専門科目であり、「理学療法管理学Ⅰ」を基礎とし、より職場における管理を学ぶ科目である。医療の高度化や変化する時代に対応しながら、関連職種と連携し、チーム医療を推進しなければならない。これまで学習した理学療法について、対象者へ提供するための、さまざまなマネジメント(管理)を学ぶ。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハラスメントについて説明できる 2. 診療報酬について説明できる 3. 養成校指定規則について説明できる 					
対面授業の 進め方	講義内容の概略を講義し、グループディスカッションを行う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office 365 の teams、form、stream を使用し、双方向通信の授業を行う。 オンデマンド配信、課題配信を組み合わせで行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 職場管理①(教科書 pp 86-99)				復習：労務管理について		
2. 職場管理②(教科書 pp 100-115)				復習：SOAP について		
3. 職場管理③(教科書 pp 116-136)				復習：診療報酬について		
4. 職場管理④(教科書 pp137-176)				復習：介護報酬について		
5. 学校教育における管理①(教科書 pp 177-194)				復習：養成校指定規則について		
6. 学校教育における管理②(教科書 pp 195-200)				復習：臨床実習について		
7. その他の管理(教科書 pp 201-239)				復習：起業について		
定期試験(期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト 100%		<input type="checkbox"/> レポート 100%		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100% <input type="checkbox"/> その他 %
	基準等					教科書及び配布資料から出題し理解度を評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	齋藤昭彦 他	PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション管理学		羊土社		2020
	植松光俊 監修	理学療法管理学		南江堂		2018
参考図書						
履修要件等						
オープンな 教育リソース						
研究室	研究科棟 4階 142 研究室			オフィスアワー	毎週月曜日 12:10~13:00	

科目No.	SPT01-4R		授業形態	講義	開講年次	4年次
授業科目名	統合理学療法学		担当教員 E-Mail	金尾 顕郎 / 理学療法学専攻教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法各領域の専門である理学療法士として実務経験のある教員が講義を行う。					
授業内容の要約	本学ディプロマ・ポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」および「リハビリテーション領域における総合的な知識および専門的な技能を充分身につけた人」を達成するための科目である。これまでに学修した理学療法専門領域において、国家試験に必要な知識と考え方について総まとめとなる科目である。そのためグループワークを取り入れ、知識の整理・定着・想起を反復しながら、問題解決力の向上を図る。					
学修目標 到達目標	1. 理学療法国家試験合格レベルの知識を習得する。 2. 理学療法士として実際に業務することができるための理学療法学分野の内容を習得する。					
対面授業の 進め方	理学療法学専攻教員によるオムニバス形式にて講義を行う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、授業のオンデマンド配信を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	120分以上	
1. 2 運動学・運動療法総論				各分野全般を計画的に行い、理解が不十分な分野は担当教員の指導を受けながら学習を行っていくこと		
3. 4 研究法・医療統計と地域リハ						
5. 6 基礎理学療法学と生活環境論						
7. 8 評価学① 理学療法評価の流れと主要検査測定（運動器・神経系）						
9. 10 評価学②生活機能評価と検査測定（基本動作・ADL・QOL）						
11. 12 中枢神経系① 脳血管障害と外傷性脳損傷・高次脳機能						
13. 14 中枢神経系② 「変性疾患」と「疼痛」						
15. 16 中枢神経系③ 「脊髄損傷」と「物理療法」						
17. 18 運動器① 上肢疾患と下肢疾患						
19. 20 運動器② 下肢骨折と脊椎疾患						
21. 22 呼吸・循環器疾患・内部障害理学療法						
23. 24 末梢神経障害・装具学						
25. 26 発達と小児疾患の理学療法						
27. 28 切断と義肢装具学						
単位認定試験						
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	■定期試験 100% <input type="checkbox"/> その
	基準等					筆記試験等の試験内容は初講日に説明する。
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	特に指定しない					

参考図書		理学療法士・作業療法士国家試験 必修ポイント 基礎 PT 学 2027 オンラインテスト付	医歯薬出版	2026
		理学療法士・作業療法士国家試験 必修ポイント 障害別 PT 治療学 2027 オンラインテスト付	医歯薬出版	2026
		国試の達人 PT シリーズ 2027 理学療法編 第 26 版	アイペック	2026
履修要件等	4 年次前期までに履修すべき単位を習得していること			
オープンな 教育リソース				
研究室	1 号館 1 階 理学療法専攻長室 各教員研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 12 : 00~13 : 00 各教員毎	

科目No.	SPT16-4R		授業形態	演習	開講年次	4年次
授業科目名	理学療法技術論		担当教員 E-Mail	今井 亮太・畑中 良太・千葉 一雄		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院で5年以上勤務経験のある教員(理学療法士)が、その経験を活かし、急性期から維持期までの運動器や神経系疾患といった様々な病態に対する必要な知識と効果的な運動療法を講義する。					
授業内容の要約	本学のディプロマ・ポリシーである「リハビリテーション領域における総合的な知識および専門的な技能を充分身につけた人」を達成するための科目である。当該科目は専門科目であり、「運動器系理学療法学実習」「内部障害理学療法学実習」「神経系理学療法学実習」を基礎とし、「臨床総合実習Ⅱ」へ発展させる科目である。各種疾患によって生じた障害構造を理解し、解剖学や生理学などの基礎医学並びに生体工学(物理学・バイオメカニクスなど)などに基づいて、理学療法の思考や技術を学習する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種疾患(障害)毎の障害構造を理解ができる 2. それらに対する理学療法の適応と禁忌ならびに注意点を理解し、基本的な評価や理学療法を実践できる 					
対面授業の 進め方	講義に基づくグループディスカッション、プレゼンテーションを併用しながら教授する。プレゼンテーションはoffice365を用い、グループディスカッションの内容をプレゼンテーションし共有する時間を設ける。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業の場合、Teams オンライン形式とforms オンデマンド形式で行う。講義形式の授業はスライド等にて説明し、実技は動画や模倣にて説明する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		90分以上
1. 理学療法技術論オリエンテーションと実技の復習(今井)				講義の復習		
2. 超音波エコーによる画像評価と触診-膝①				解剖とエコー画像のノートデッサン		
3. 超音波エコーによる画像評価と触診-膝②				解剖とエコー画像のノートデッサン		
4. 超音波エコーによる画像評価と触診-股関節①				解剖とエコー画像のノートデッサン		
5. 超音波エコーによる画像評価と触診-股関節②				解剖とエコー画像のノートデッサン		
6. 疼痛の基礎知識(今井)				講義の復習		
7. 急性疼痛と慢性疼痛に対する理学療法(今井)				講義の復習		
8. 運動器疾患に対する運動療法(今井)				講義の復習		
9. 運動器疾患に対する運動療法(プレゼンテーションとグループ討論)(今井)				講義の復習		
10. 筋強直性ジストロフィーについて(畑中)				今回の復習		
11. 摂食嚥下障害と姿勢調整について(畑中)				今回の復習		
12. 摂食嚥下障害と理学療法アプローチ(畑中)				今回の復習		
13. 前庭障害について(畑中)				今回の復習		
14. 前庭障害に対するリハビリテーション(畑中)				今回の復習		
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)(畑中)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート 20%	■定期試験 40%	□その他 20%	

	基準等	授業中に実施した内容の理解度を課題・小テストにて評価する	運動器領域では、講義内容に関するレポートを課す。	授業中に実践した理学療法技術の習得度を評価する	運動器領域では、実技の取り組み、態度評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	特に指定しない				
参考図書	才藤栄一 他	摂食嚥下リハビリテーション 第3版		医歯薬出版	2016
	森若文雄 他	姿勢から介入する摂食嚥下脳卒中患者のリハビリテーション		メジカルビュー社	2017
	伏木宏彰 他	前庭障害に対するリハビリテーション		メジカルビュー社	2019
	林 典夫 他	改定第2版 機能解剖学的触診技術		メジカルビュー社	2012
履修要件等	特になし				
オープンな教育リソース	特になし				
研究室	今井：研究科棟4階 第145研究室 畑中：研究科棟4階 142研究室	オフィスアワー	今井：毎週月曜日 12：10～13：00 畑中：毎週月曜日 12：10～13：00		

科目No.	SPT17-4R		授業形態	演習	開講年次	4年次
授業科目名	理学療法学 PBL		担当教員 E-Mail	金尾 顕郎 / 理学療法学専攻教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	前期(16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として実務経験のある教員が指導にあたる。					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマ・ポリシーである「所定の臨床実習および卒業研究などの科目において、応用的学力を身につけた人」を達成するための科目である。当該科目は専門科目であり、各領域の理学療法学科目の知識を元に「臨床総合実習Ⅱ」への準備となる科目である。さまざまな障害に対する「理学療法評価」「統合と解釈」及び解決するための理学療法プログラムについて理解を深めることができる。「臨床総合実習Ⅱ」に向けて、問題解決型学習の方法論を取り入れ、ケーススタディを通して、理学療法士免許を持つ各教員がチューターとしてつき、小グループごとで学習する。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 症例紹介のプロフィールからリスク管理を踏まえて、理学療法評価計画を立てられる 2. 症例の全体像、ADL 状況、動作観察の情報から、障害を予想し検査測定項目を選択できる 3. これまでのデータと検査・測定結果から症例の障害について理解する 4. 評価内容から理学療法プログラムを立案できる 					
対面授業の 進め方	各グループのチューターとして理学療法士免許を持つ各教員が指導する。グループワークになるので一人一人が協力して取り組む。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合は、PBL グループごとに Teams を作成し、担当教員ごとで指導する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 症例紹介のプロフィールに対するグループ討論				症例の基礎疾患について復習する		
2. 理学療法評価計画の発表						
3. 症例の全体像、ADL 状況、動作観察に対するグループ討論				適応となる検査測定について復習する		
4. 検査測定項目の発表						
5. 検査・測定結果に対するグループ討論				ICF 等を活用して障害構造について復習する		
6. 症例の障害構造についての発表						
7. 評価内容に対するグループディスカッション				障害別理学療法治療学について復習する		
定期試験（期末レポート）症例報告レポートまたは課題のまとめを提出						
8. 理学療法プログラムについての発表						
成績評価方法	項目	<input checked="" type="checkbox"/> 課題・小テスト 50%	<input checked="" type="checkbox"/> レポート 50%	<input type="checkbox"/> 定期試験 %	<input type="checkbox"/> その他 %	
	基準等	授業ごとの課題内容	症例報告レポート または 授業課題のまとめ			
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	特になし					
参考図書	有馬慶美 他	ケースで学ぶ理学療法臨床思考 基本編 第2版		文光堂	2019	
	有馬慶美 他	ケースで学ぶ理学療法臨床思考 実践編 第2版		文光堂	2019	
履修要件等	3年次までの専門基礎科目・専門科目が履修済みであること。					

オープンな 教育リソース			
研究室	1号館1階 理学療法専攻長室 各教員研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 12:00~13:00 各教員毎

科目No.	SPT18-4E, SRE21-4E		授業形態	講義	開講年次	4年次
授業科目名	精神科理学療法学		担当教員 E-Mail	今岡 真和		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	1単位	後期(16h)
	ヘルス プロモーション	リハビリテーション学				
教員の実務経験と 授業内容の関連	精神・心理的フレイルなどを研究を実施している教員が、急性期の精神科から高齢者に多い認知症まで理学療法の視点で関わる重要性、運動による効果などを網羅的に授業する					
授業内容の要約	リハビリテーションに携わる理学療法士が必要な精神医学並びに臨床心理学の基礎的知識を理解し、精神領域理学療法の臨床的意義を学ぶ					
学修目標 到達目標	1. 精神科領域について知る 2. 認知症とその周辺症状および実践を理解する 3. 運動とメンタルヘルスについてについて知る					
対面授業の 進め方	状況に応じてオンラインを併用実施することもある					
遠隔授業の 進め方	Teams でスライドを DL し、その回の課題を提出する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上
1. 精神総論①			指定された内容を調べる			
2. 精神総論②			指定された内容を調べる			
3. 精神科領域における運動療法			指定された内容を調べる			
4. 精神科領域における運動療法の実践			指定された内容を調べる			
5. 認知症と MCI			指定された内容を調べる			
6. 労働環境におけるメンタルヘルスの問題			指定された内容を調べる			
7. 依存症とその関りについて			指定された内容を調べる			
定期試験 (期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック			全体を通じた振り返りを必ず実施			
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト 0%	<input checked="" type="checkbox"/> レポート 50%	<input type="checkbox"/> 定期試験 50%	<input checked="" type="checkbox"/> その他 50%	
	基準等		精神科理学療法に関する知識の整理とまとめ提出		認知機能検査など実践	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
参考図書						
履修要件等						
オープンな 教育リソース						
研究室	研究科棟 4階 第 143 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12:10~13:00		

科目No.	SPT19-4E, SRE22-4E		授業形態	講義	開講年次	4年次
授業科目名	産業理学療法学		担当教員 E-Mail	今岡 真和		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	1単位	後期(16h)
	ヘルス プロモーション	リハビリテーション学				
教員の實務経験と 授業内容の関連	2018年から工場勤務者の運動機能計測やアライメント計測を継続して実践しており、アブセンティーズム改善に向けた腰痛対策や理学療法介入プログラムの提供も行っている。加えて、プレゼンティーズム向上のための産業理学療法を国内で先駆的に取り組んでいる。					
授業内容の要約	産業保健あるいは産業衛生概念における就労者の職業に関連する健康増進と労働災害、職業病などの予防を目的とする学術的・実践的領域を知る。特に、職業性腰痛予防、生活習慣病予防、労働災害予防等に関する理学療法の知識と技術の普及と啓発の重要性を学ぶ。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産業理学療法の領域について知る 2. 人間工学を知る 3. 労働環境における筋骨格系障害について知る 4. メンタルヘルス問題の予防について知る 					
対面授業の 進め方	状況に応じてオンラインを併用実施することもある					
遠隔授業の 進め方	Teams でスライドを DL し、その回の課題を提出する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 産業理学療法の未来とわが国の理学療法におけるトピック				自宅にて本領域の調べ		教科書 P193-216
2. 人間工学と行動変容理論				自宅にて本領域の調べ		教科書 P217-240
3. 労働環境における筋骨格系障害①				自宅にて本領域の調べ		教科書 P241-249
4. 労働環境における筋骨格系障害②				自宅にて本領域の調べ		教科書 P258-264
5. 転倒予防				自宅にて本領域の調べ		教科書 P266-272
6. 労働環境におけるメンタルヘルスの問題				自宅にて本領域の調べ		
7. 女性特有の労働対策・就労支援				自宅にて本領域の調べ		
定期試験(期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト 0%	<input checked="" type="checkbox"/> レポート 50%	<input type="checkbox"/> 定期試験 50%	<input checked="" type="checkbox"/> その他 50%	
	基準等		産業理学療法に関する知識の整理とまとめ提出		運動機能検査の実施	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	樋口由美・他	予防と産業の理学療法		南江堂	2020年	
参考図書						
履修要件等	生活環境学・公衆衛生学は履修後が望ましい					
オープンな 教育リソース	産業理学療法の実践記事： https://inbody.co.jp/kawariha-fujiseiyu/					
研究室	研究科棟 4階 第143研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12:10~13:00		

科目No.	SCP09-4R		授業形態	実習	開講年次	4年次
授業科目名	臨床総合実習Ⅱ		担当教員 E-Mail	金尾 顕郎・峰久 京子・岡 健司		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床実習		必修	8単位	前期 (360h) 8週間
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として実務経験のある教員と臨床実習指導者講習会を修了した臨床実習指導者が指導にあたる。					
授業内容の要約	本学のディプロマ・ポリシーである「所定の臨床実習および卒業研究などの科目において、応用的学力を身につけた人」を達成するための科目である。当該科目は専門科目であり、「臨床総合実習Ⅰ」で実施した内容を踏まえながら、さまざまな障害像に対して臨床実習指導者の助言・指導・援助の下に理学療法を実施し、その経験を通して各障害に対する理学療法の理解を深めることができる。臨床実習施設において臨床実習指導者の指導監督の下、診療チームの一員となり、理学療法評価から理学療法介入までの実際を診療参加型臨床実習として行う。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法のプロセスを理解することができる。 2. 指導・助言の下で、基本的な理学療法評価・理学療法を実施できる。 3. 症例に応じた問題点の抽出や臨床的推論を理解し、理学療法プログラムの立案ができる。 4. 指導・助言の下で、理学療法の効果判定を理解できる。 					
対面授業の 進め方	臨床総合実習Ⅰで気づけなかった事や取り組んでできなかった事を踏まえ、実習の手引きを熟読すること。最終の臨床実習なので自ら積極的に実習に取り組んでいただきたい。なお、実習後セミナーである症例報告会にて実習の成果を発表し、積極的にディスカッションしていただきたい。					
遠隔授業の 進め方						
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分程度
<ul style="list-style-type: none"> ・8週にわたり、病院等で臨床総合実習を実施する ・実習前評価として理学療法学 PBL で明らかとなった自己課題に対する取り組みを評価する。 ・実習後にセミナー（症例報告会）を行う ・実習前後の知識評価として Computer Based Testing (CBT) を行う 				<p>毎日の実習経験をデイリーノート及びケースノートにまとめる。</p> <p>実習報告会用のレジメを A3 用紙 1 枚にまとめる。実習に関する基礎知識を自己学習する。</p>		
成績評価方法	項目	<input checked="" type="checkbox"/> 課題・小テスト 20%	<input type="checkbox"/> レポート %	<input type="checkbox"/> 定期試験 %	<input checked="" type="checkbox"/> その他 80%	
	基準等	実習前後 CBT		実習成果記録に基づく成績、セミナー（症例報告）、提出物等を総合して判定する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
		「臨床実習の手引き 第7版」				
		「理学療法学専攻：臨床実習の手引き 2025年度版」				
参考図書	特に指定しない					
履修要件等	<ol style="list-style-type: none"> ① 実習要件 3) を満たしていること ② 該当年度の理学療法 PBL における到達度評価が合格水準に達すること 					
オープンな 教育リソース						
研究室	各担当教員研究室		オフィスアワー	各担当教員オフィスアワー		

科目No.	SOM02-4R		授業形態	講義	開講年次	4年次
授業科目名	作業療法管理学Ⅱ		担当教員 E-Mail	岸村 厚志		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法管理学		必修	1単位	前期(16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	臨床現場での責任者としての勤務経験、作業療法部門の顧問としての指導経験、専門学校での学科長・教務部長、一般企業での主任・営業所長の経験・一般社団法人大阪府作業療法士会での事務局長など管理の実務経験を基に、管理学の必要性について講義を行う。					
授業内容の要約	作業療法業務の実際として人・物・経済性のマネジメント、情報・時間・ストレスマネジメント、作業療法部門の業務管理、職業倫理と研究倫理、諸制度(医療保険制度、介護保険制度、障害者福祉制度など)、地域包括ケアシステム、作業療法教育・臨床実習の管理・運営と指導法、作業療法士のキャリア開発、感染対策などについて理解を深める。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理とは、職業倫理・研究倫理について理解できる。 2. 作業療法に関連する諸制度(医療保険制度、介護保険制度、障害者福祉制度など)について理解できる。 3. 職能団体(日本作業療法士協会・各都道府県士会)の重要性について理解できる。 4. 作業療法教育・作業療法臨床実習の管理・運営と指導法について理解できる。 5. 作業療法士のキャリア開発について理解できる。 					
対面授業の 進め方	・教科書、配布資料、パワーポイントを用いた講義と学生同士のディスカッションを中心に、一部演習も取り入れる。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365のteamsを使用し、双方向通信にてオンライン授業を行う。併せてメール通信による課題の提示については、担当教員からの連絡・指示があります。出席確認の方法は通信開始時に行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員に直ちに申し出てください。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 作業療法業務のマネジメント			配布資料を復習しそれぞれのポイントをノートにまとめ整理しておくこと			
2. 作業療法士の職業倫理			同上			
3. 作業療法の役割、関連する諸制度			同上			
4. 職能団体とは(日本作業療法士協会・各都道府県士会) (関本先生)			同上			
5. 作業療法教育・臨床実習の管理・運営と指導法について			同上			
6. 作業療法士のキャリア開発について①			同上			
7. 作業療法士のキャリア開発について②			同上			
定期試験(期末試験)						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト 50%	□レポート 0%	■定期試験 50%	■その他 0%	
	基準等	毎回の課題か小テスト各10点×7回分を50%に換算				

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
		大庭 潤平	作業療法管理学 第3版	医歯薬出版
参考図書	日本リハビリテーション医学会	リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン 第2版	診断と治療社	2018
	金谷 さとみ 高橋 仁美	リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック	メジカルビュー社	2018
	高木 綾一	リハビリテーション職種のマネジメント	シービーアール	2018
履修要件等	普段から医療・保健・福祉機関の組織形態や管理・運営について考えること			
オープンな教育リソース				
研究室	1号館1階 作業療法学専攻長室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00	

科目No.	SOT01-4R		授業形態	講義	開講年次	4年次
授業科目名	統合作業療法学		担当教員 E-Mail	武井 麻喜・作業療法学専攻教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	作業療法各領域の専門である作業療法士として実務経験のある教員が講義を行う。					
授業内容の要約	<p>本学ディプロマ・ポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」および「リハビリテーション領域における総合的な知識および専門的な技能を充分身につけた人」を達成するための科目である。4年間の集大成として、これまで学習してきた作業療法学に関する総合的な理解を深める。作業療法学専攻教員が中心となり、国家試験に準拠した知識面の整理を行い、Active Learningにて理解を深める。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法国家試験出題分野(専門分野)について、国家試験出題レベルの解釈ができる 2. 国家試験の出題パターンを理解し、過去問題に関連する知識を統合することができる 3. 事前学習を前提に演習問題を解き、国家試験レベルの応用力を修得することができる 					
対面授業の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・オムニバス形式で実施し、作業療法学専攻教員が各専門分野の解説を行う。 ・広範囲にわたる事前学習を前提とし、作業療法士国家試験対策の講義・演習が中心となる。 					
遠隔授業の 進め方	<p>Microsoft office365のteamsを使用し、双方向通信の授業を行う。課題配信の有無については、各担当教員からの連絡がある。出席確認の方法は授業開始時に行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出ること。</p>					
授業計画				授業時間外に必要な学修	90分以上	
1. ガイダンス (単位認定試験に関する説明、国家試験対策学習について) ADL、生活環境整備、基礎作業学 (法律、歴史関連)、管理運営学【岸村】				<p>専門分野全般を計画的に、「個人学習」、「グループ学習」を実施し、理解の不十分な分野は各担当教員の指導を受けながらActive Learningを進めること</p>		
2. 作業療法評価学・治療学 (統合失調症、気分障害)【白岩】						
3. 作業療法評価学・治療学 (神経症ストレス、成人人格行動障害)【白岩】						
4. 作業療法評価学・治療学 (その他精神疾患)【増澤】						
5. 地域作業療法学 (精神領域・就労支援関連)【増澤】						
6. 作業療法評価学 (MMT・内部障害)、作業療法治療学 (内部障害)【中越】						
7. 地域作業療法学 (身体障害領域)【中越】						
8. 作業療法評価学・治療学 (神経筋障害・整形外科)【嶋野】						
9. 作業療法評価学・治療学 (認知症)【嶋野】						
10. 作業療法評価学 (ROM・中枢神経障害) 作業療法治療学 (中枢神経障害)【水野】						
11. 作業療法評価学 (基本評価)・作業療法評価学・治療学 (脊髄損傷、補装具療法)、臨床実習、研究法【上島】						
12. 作業療法評価学・治療学 (発達障害)【特別講師：中村愛子】						
13. 義肢・装具学【特別講師：田丸佳希】						
14. 作業療法評価学 (その他評価)【武井】						
15. 作業療法評価学・治療学 (小児精神領域)、基礎作業療法学 (作業療法の基礎、ICF、治療理論など)【武井】						
定期試験 (単位認定試験として別に定める日程で実施する)				試験内容の復習を行うこと		

成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100%	□その他 %
	基準等			筆記試験等の試験内容等は初講日に説明する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
		必要に応じて随時指定する			
参考図書	医療情報科学研究所 編集	クエスチョン・バンク作業療法士 国家試験問題解説 2027 専門問題		メディックメディア	2026
	作業療法科学研究会 著	国試の達人 OT シリーズ 2027～作業療法 編～新改訂版		アイペック	2026
	医歯薬出版編集	第 57-61 回 理学療法士・作業療法士 国家試験問題 解答と解説 2027		医歯薬出版	2026
	厚生労働省ホームページ 令和 6 年版理学療法士作業療法士国家試験出題基準 URL: https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000163627_00001.html				
履修要件等	4 年次前期までの全ての専門科目・専門基礎科目の履修が望ましい				
オープンな教育リソース					
研究室	各講義の担当教員	オフィスアワー	講義終了後、随時質問を受け付ける		

科目No.	SOT16-4E		授業形態	演習	開講年次	4年次
授業科目名	作業療法学 PBL		担当教員 E-Mail	岸村厚志・武井麻喜・白岩圭吾・中越雄也		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		選択必修	1単位	前期(16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	担当教員のリハビリテーションにおける臨床経験を基にした事例・症例をテーマとして、グループで議論するアクティブ・ラーニングを中心に行う。					
授業内容の要約	心身障害領域の症例検討を中心とした臨床実践能力を育む(知識・技術の再確認)。教育内容はPBL(問題解決型学習)を取り入れ、学生が問題解決までの過程を推論・考察し、自分の考え方をまとめて他学生に説明する思考能力とコミュニケーション能力を身に付けることを目的としたグループディスカッションを中心に構成されている。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 症例紹介と症例プロフィールに対してグループ内でディスカッションできる 2. 症例プロフィールから作業療法の評価計画を立案できる 3. 症例の全体像から障害構造を予測し適切な評価項目を選択できる 4. 選定した評価項目と評価結果に対しグループ内でディスカッションできる 5. 各グループ間で評価結果の統合解釈をまとめる事ができる 6. 作業療法プログラムに対しグループ内でディスカッションできる 7. 作業療法プログラムの立案ができる 8. 全体発表会でグループ発表を行える 					
対面授業の 進め方	<ol style="list-style-type: none"> ① 参加学生をグループ分けし、各グループでのディスカッションを通して症例検討を行う ② 検討した結果をグループ内で発表する ③ 全体会で発表する 					
遠隔授業の 進め方	今年度は、基本的に全て対面にて授業で実施する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. オリエンテーション等課題解決に導く推論の説明(岸村)				実習で担当した症例の報告書を復習しておいて下さい。また、架空の症例評価、介入計画、介入実施のシミュレーションを行いますので、その準備を可能な範囲で実施しておいて下さい。その他、討論と発表の準備も事前にしておいて下さい。		
2. 応用行動分析学を用いた症例の紹介と検討の進め方の説明(岸村)						
3. オリエンテーション等課題解決に導く推論の説明(白岩)						
4. 精神科の症例の紹介と検討の進め方の説明(白岩)						
5. オリエンテーション等課題解決に導く推論の説明(武井)						
6. 生活行為向上マネジメント(MTDLP)を用いた症例検討(武井)						
7. オリエンテーション等課題解決に導く推論の説明(中越)						
8. OTIPMを用いた症例の紹介と検討の進め方の説明(中越)						
【症例・担当者・日時と場所】 ・水曜3限目・4限目：1号館 第2中講義 ・木曜1限目・2限目：1号館 小講義 <ol style="list-style-type: none"> 1. 応用行動分析学(岸村) 4/8 2. 生活行為向上マネジメント(MTDLP)(武井) 4/22 3. 精神(白岩) 4/23：2限、30：2限 4. OTIPM(中越) 5/7 						

成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 100 %	□定期試験 %	■出席・他 %
	基準等		症例検討から評価・介入計画プログラム立案に至る過程をレポートにまとめる。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
参考図書	大嶋伸雄	作業療法カウンセリング		三輪書店	2020
	大嶋伸雄	患者力を引き出す作業療法 —認知行動療法の応用による身体領域作業療法—		三輪書店	2013
履修要件等	症例報告書の作成に精通しておくこと				
オープンな教育リソース					
研究室	各担当教員研究室		オフィスアワー	各担当教員オフィスアワー参照	

科目No.	SCP09-4R		授業形態	実習	開講年次	4年次
授業科目名	臨床総合実習Ⅱ		担当教員 E-Mail	中越 雄也・武井 麻喜・嶋野 広一		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	臨床実習		必修	9単位	前期 (405h) 9週間
教員の実務経験と授業内容の関連	病院や施設で臨床経験のある教員と臨床実習指導者がその経験を活かして、対象者（児）の評価や治療の実践、治療の効果判定が実施できるように指導する。					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマポリシーである「リハビリテーション領域における総合的な知識および専門的な技能を充分身につけた人」「対象児・者の心理的、社会的背景にも配慮ができ、課題の発見・解決に向けて、不断の努力ができる人」「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる人」を達成するための科目である。また、教育課程における専門科目であり、4年次のカリキュラム・ポリシーを達成するための中心となる科目である。</p> <p>身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から1分野の施設にて臨床実習を実施する。臨床の場で対象者（児）の評価法を修得し、さらに治療計画の立案・治療実施・再評価・治療の効果判定を経験し作業療法士としての基本的な役割を実践する。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法及び作業療法士の機能と役割を理解することができる 2. 対象者（児）の評価法を修得することができる 3. 治療計画を立案し、治療を実施することができる 4. 治療の結果を踏まえ、予後について考察することができる 					
対面授業の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・実習にふさわしい服装で臨むこと ・一般社会常識、マナー、そして社会性が求められるため医療従事者として責任感のある行動・態度に配慮すること。 ・連絡・相談・報告や自己管理に十分注意を払うこと。 					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信にて学内代替実習を行う。課題配信（症例の評価から治療計画と治療プログラムの立案と実施、再評価と考察）の提示については、各担当教員からの連絡や指示があるので、メールを確認しておくこと。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から1分野9週間の実習を実施する。 ・対象者（児）の評価を修得し、さらに治療計画の立案・治療実施を経験し、作業療法士としての基本的な役割を実践経験する。 ・治療結果を踏まえ再評価を行い、新たな治療計画の立案とともに予後予測についても考察する 				自宅学修で、デイリーノート、ケース記録、評価治療計画、レジュメなどの課題を行い、分からないことがあれば調べて理解すること		
成績 評価方法	項目	■ その他 100 %				
	基準等	<ol style="list-style-type: none"> ① 実習前後 CBT 10% ② 実習中における学生への要支援状況 30% ③ 臨床総合実習Ⅱ評定表 40% ④ 症例報告会、レジュメ作成 15% ⑤ その他 5% 				
教科書	作業療法学専攻 臨床実習の手引き 第7版、臨床実習の手引き 4年次版（別冊子）第5版					
参考図書	特になし					

履修要件等	本学履修規程の実習要件4を満たしていること (1) 3年次までの必修科目（専門基礎、専門）が修得済みであること (2) 4年次前期の必修科目（専門基礎、専門）が修得済みであること		
オープンな教育リソース			
研究室	各実習担当教員研究室	オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー参照

科目No.	SDS04-4R, SRE09-3E		授業形態	講義	開講年次	3年次・4年次
授業科目名	言語聴覚障害学総論		担当教員 E-Mail	塚本 能三・その他教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	障害学総論		必修	1単位	前期(16h)
	ヘルス プロモーション	リハビリテーション学		選択必修		
教員の実務経験と 授業内容の関連	担当する講義内容に相当する臨床について職場での勤務を通じて経験のある各教員が講義を行う。					
授業内容の要約	医療・介護・福祉・教育機関の臨床現場において、言語聴覚・摂食嚥下リハビリテーションを行う際に、必要な医学、薬理学、栄養学、看護学、歯科学、理学療法学、作業療法学、臨床心理学、工学、教育制度・社会保障制度等関連領域に関する知識・技能の再学習と整理統合を行い、対象児・者に対する多面的な理解と支援が理論の裏付けを伴った実践ができることを目指す。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関連職種の職務内容、教育制度、社会福祉制度とその法的基盤について再学習する 2. 臨床現場で提供される関連領域からの情報を理解し、対象児・者へのアプローチに活用できる。 3. 対象児者の罹病期間やライフ・ステージに即した評価訓練・環境調整・職種連携ができる。 					
対面授業の 進め方	画像解析のディスカッション、実技演習、レポート作成等を通じアクティブラーニングをめざす。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し、リアルタイムの双方向通信授業を行う。 通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 言語聴覚士の業務と職業倫理 (テキスト p 252 ~ 258) 【馬屋原】				復習しノートにまとめる。		
2. X線 CT、MRI、fMRI、PET と臨床症状 (マニュアル p 180 ~ 333) 【岡田】				復習しノートにまとめる。		
3. 脳波(EEG)、筋電図(EMG)、心電図(ECG)と臨床症状 (テキスト p 46 ~ 55) 【岡田】				復習しノートにまとめる。		
4. バイタル・サイン、主要な薬剤の影響、診療情報記録 【岡田】 (資料配布)				復習しノートにまとめる。		
5. 対象児・者の社会的支援：教育制度、言語聴覚療法管理学 【高橋】 (資料配布)				復習しノートにまとめる。		
6. STに必要なPTの知識：呼吸、排痰、移乗等 【村上】 (資料配布)				復習しノートにまとめる。		
7. STに必要なOTの知識：利き手交換、片手動作、使用手・補助手 書字、食事動作等 【水野】 (資料配布)				復習しノートにまとめる。		
8. 社会保障制度・医療保険制度・介護保険制度 【野村】 (資料配布)				復習しノートにまとめる。		
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 100%	□定期試験 %	□その他 %	
	基準等	学んだ知識を臨床場面ですぐのように活かせるかを問い、内容を評価する。				
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	平野哲雄 他	言語聴覚療法 臨床マニュアル 改訂第3版		協同医書出版	2014	
	大森孝一 他	言語聴覚士テキスト 第3版		医歯薬出版	2018	
参考図書	大森孝一 他	言語聴覚士テキスト 第4版		医歯薬出版	2025	
	藤田郁代 監修	標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論 第2版		医学書院	2019	
履修要件等	4年生前期までのすべての科目が履修済みであることが望ましい。					
オープンな 教育リソース						
研究室	1号館5階 第19研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12:10~13:00		

科目No.	SDS05-4R		授業形態	講義	開講年次	4年次
授業科目名	統合言語聴覚学		担当教員 E-Mail	塚本 能三 / 言語聴覚学専攻教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	障害学総論		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	各担当分野で臨床経験のある教員が、その経験を生かして講義し4年間の学修内容のまとめをする。					
授業内容の要約	これまでに学習した専門基礎分野と専門分野を統合して、言語聴覚障害学の応用を学ぶ。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでに学習したことを確実に身につける。 2. 専門用語や障害発生機序など、人に平易な言葉で説明できる力を身につける。 3. 各分野との関連性を理解して、応用力を身につける。 					
対面授業の 進め方	座学が中心の講義形式となるが、グループ学習の成果も求める場合がある。学修の状況により、補講を行う場合がある。言語聴覚障害学における理解の最終構築という科目であり、30時間以上の講義となる可能性は高い。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し、リアルタイムの双方向通信授業を行う。通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	5時間以上	
1.2. 心理測定法・臨床心理学Ⅱ・学習・認知心理学【松尾】				講義内容を復習しノートにまとめる。		
3.4. 社会保障制度・関係法規【野村】				講義内容を復習しノートにまとめる。		
5.6. 聴覚心理学・音響学・聴覚障害治療学Ⅱ・聴覚心理学・視覚聴覚二重障害学・補聴器・人工内耳【馬屋原】				講義内容を復習しノートにまとめる。		
7.8. 嚥下障害学・運動障害性構音障害学【和田】				講義内容を復習しノートにまとめる。		
9.10. 失語・高次脳機能障害学Ⅰ・音声障害学・器質性構音障害学【上田】				講義内容を復習しノートにまとめる。		
11.12. 失語・高次脳機能障害学Ⅱ・失語・高次脳機能障害学Ⅲ【塚本】				講義内容を復習しノートにまとめる。		
13.14. 言語発達学・機能性構音障害学・言語発達障害学Ⅱ・言語聴覚障害診断学【高橋】				講義内容を復習しノートにまとめる。		
定期試験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）【塚本】				講義内容の復習		
成績評価方法	項目	■定期試験 90 %		その他 10%		備考
	基準等	履修者は4回の試験を全て受験すること。単位取得には6割以上の点数を2回以上取る事が必要。		授業態度、熱意、計画性等を考慮し評価する		定期試験の難易度による基準を専攻で設定し、S・A・C・Fと評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	平野哲雄他編著	言語聴覚療法 臨床マニュアル 改訂 第3版		協同医書出版	2014	
	大森孝一ほか	言語聴覚士テキスト 第3版		医歯薬出版	2018	
参考図書		言語聴覚士国家試験データベース 2026年版		GLANZ PLANNING	2025	
	種村純 種村留美（編）	高次脳機能障害リハビリテーションの掟		中外医学社	2024	
履修要件等	4年生前期までのすべての科目が履修済みであることが望ましい。					
オープンな 教育リソース						
研究室	1号館1階 言語聴覚学専攻長室		オフィスアワー	毎週水曜日 14:40~16:10		

科目No.	SDS06-4E		授業形態	演習	開講年次	4年次
授業科目名	言語聴覚学 PBL		担当教員 E-Mail	塚本 能三・言語聴覚学専攻教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	障害学総論		選択必修	1単位	前期(16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	教員全員が言語聴覚士で、実務経験があり、それぞれの専門分野と関連している。					
授業内容の要約	医療・介護・福祉現場における言語聴覚障害・摂食嚥下等を有する対象児・者の事例を通して問題抽出、情報収集、評価・訓練・訓練結果からの考察、環境調整・職種連携の計画立案等、言語聴覚士として必要な介入手法を学ぶ。OSCEを通して臨床場面の実践対応の下地を形成する。					
学修目標 到達目標	1. 高次脳機能障害、摂食嚥下障害、構音障害、発達障害を含む種々の言語聴覚障害について再学習する。 2. 高次脳機能障害、摂食嚥下障害、その他言語聴覚障害との関連疾患及び治療について再学習する。					
対面授業の 進め方	情報収集演習、症例のCT・MRI・ビデオ等の解析、検査演習、訓練演習、グループ討論、発表、小テスト等を実施する。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365のTeamsを使用し、リアルタイムの双方向通信授業を行う。 通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 事例：運動障害性構音障害、摂食嚥下障害、音声障害【芦塚】			講義内容を復習しノートにまとめる。			
2. 事例：運動障害性構音障害、摂食嚥下障害、音声障害【芦塚】			講義内容を復習しノートにまとめる。			
3. 事例：運動障害性構音障害、摂食嚥下障害、音声障害【上田】			講義内容を復習しノートにまとめる。			
4. 事例：高次脳機能障害、失語症【上田】			講義内容を復習しノートにまとめる。			
5. 事例：高次脳機能障害、失語症【芦塚】			講義内容を復習しノートにまとめる。			
6. 事例：高次脳機能障害、失語症【塚本】			講義内容を復習しノートにまとめる。			
7. 事例：高次脳機能障害、失語症【塚本】			講義内容を復習しノートにまとめる。			
定期試験						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）【塚本】			講義内容を復習しノートにまとめる。			
成績評価方法	項目	□osce 30%	■レポート 60%	□定期試験 %	□その他 10%	
	基準等	評価表に基づき評価する。	学んだ知識を臨床場面でのように活かせるかを問い、内容を評価する。		授業態度等	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	平野哲雄 他	言語聴覚療法 臨床マニュアル 改訂第3版		協同医書出版	2014	
	大森孝一 他	言語聴覚士テキスト 第3版		医歯薬出版	2018	
参考図書	藤田郁代 監修	標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論 第2版		医学書院	2019	
	言語聴覚士国家試験研究会	2025年版言語聴覚士国家試験データベース 10年間+300		GLANZ PLANNING	2024	
	種村純 種村留美(編)	高次脳機能障害リハビリテーションの掟		中外医学社	2025	
履修要件等	3年生までの全ての専門科目が履修済みであることが望ましい。					
オープンな教育リソース						
研究室	1号館1階 言語聴覚学専攻長室		オフィスアワー	毎週水曜日 14:40~16:10		

科目No.	SCP09-4R		授業形態	実習	開講年次	4年次
授業科目名	臨床総合実習		担当教員 E-Mail	塚本 能三・ST 教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	臨床実習		必修	8 単位	前期 (320h) 8 週間
教員の実務経験と授業内容の関連	臨床現場で実習生指導経験のある教員が、実習先の指導者と連携をとりながら学生をフォローする。					
授業内容の要約	医療・介護・福祉・教育機関において、言語聴覚・摂食嚥下障害のある方の実態と言語聴覚士の業務内容を理解し、対象児・者のニーズ把握とその解決に必要な支援の方法を学ぶ。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 評価結果から長期・短期の各目標を設定し実習指導者の下、計画に基づいた訓練を施行できる。 2. 再評価を行い、結果に応じた訓練計画の再立案ができる。 3. 日々の臨床、カンファレンスにおいて他の言語聴覚士及び関連職種と連携し情報共有ができる。 4. 実習指導者の下、対象児・者とその周囲に対して指導・説明が行える。 5. 実習施設の組織や言語聴覚療法部門の運営・管理について学ぶ。 					
対面授業の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前指導では講義、情報検索、討論、ロールプレイ、演習、必要書類作成等を行う。 実習日誌は実習中毎日作成・提出し実習指導者の校閲・指導を受ける。実習終了時に一括して大学へ提出する。実習終了時は症例報告、実習報告レポート等を作成し実習指導者と大学に提出する。大学においてパワーポイントを作成し、実習報告会で発表する。 ・実習要件 3) (履修の手引き参照) を満たさなければ履修できない。4 年間の学習のまとめと今後の臨床の礎とする。欠席が 1/5 を超えた者は単位を取得できない。 					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し、リアルタイムの双方向通信授業を行う。通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		90 分以上 / 週
【実習前指導】 <ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての心得、対象児・者に対する心得 ・医療・介護・福祉・教育機関における心得 ・情報収集演習、症例ビデオの解析、検査演習、グループ演習 【臨床総合実習】 <ul style="list-style-type: none"> ・評価結果から実習指導者の下、計画に基づいた訓練を行う。 ・再評価を行い、決壊に応じた訓練計画の再立案を行う。 ・他の言語聴覚士・関連職種からの情報を共有し連携する ・実習指導者の下、対象児・者とその周囲に対して指導・説明を行う。 ・実習施設の組織や言語聴覚療法部門の管理運営について学ぶ。 【臨床総合実習報告会】 <ul style="list-style-type: none"> ・症例報告をレポートにまとめ報告会で発表する。 				臨床評価実習で指摘された課題を解決し本実習に臨むこと。		
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	□定期試験 %	■その他 100%	
	基準等				実習前指導・実習中・報告会の出席学修状況、提出物、実習指導者による評価等を総合判定する	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
		大阪河崎リハビリテーション大学 言語聴覚学専攻：実習の手引き				
参考図書			適宜紹介			

履修要件等	実習要件を満たしていること		
オープンな 教育リソース			
研究室	1号館1階 言語聴覚学専攻長室	オフィスアワー	毎週水曜日 14:40~16:10

科目No.	SSM01-4R		授業形態	講義	開講年次	4年次
授業科目名	言語聴覚療法管理学		担当教員 E-Mail	芦塚 あおい		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	言語聴覚療法管理学		必修	1単位	後期(16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	臨床現場の実務経験と学びを基に、言語聴覚療法における安全管理学、救急医療学の基本的知識・技術・態度を学ぶ。					
授業内容の要約	リハビリテーション医療における安全管理学、救急医療学を知る。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション医療において安全管理はなぜ必要か、その理由は何か、が理解できる。 2. 安全管理学・医療安全を理解できる。 3. 救急医療学を理解できる。 					
対面授業の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、配布資料、パワーポイント ・臨床実習現場に出た時に極めて重要であることを学ぶ。 					
遠隔授業の 進め方	teamsを使用し、双方向通信の授業を行う。課題配信の有無については、各担当教員からの連絡があります。出席確認の方法は授業開始時行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. なぜ安全管理学を学ぶのか？安全管理とは？（教科書：教と略す pp8～22）				予習：知らない言葉を調べておく		
2. 医療・介護施設、感染症に対する安全管理（教：pp24～38）				予習：知らない言葉を調べておく 復習：講義内容の振り返り		
3. 転倒予防と安全管理、医療・リハビリテーション機器の安全管理（教：pp44～55）				予習：知らない言葉を調べておく 復習：講義内容の振り返り		
4. 救急医療学総論（教：pp64～78）				予習：知らない言葉を調べておく 復習：講義内容の振り返り		
5. 集中治療室でのリハビリテーション（教：pp88～94）				予習：知らない言葉を調べておく 復習：講義内容の振り返り		
6. 在宅での安全管理と救急時の対応（教：pp104～110）				予習：知らない言葉を調べておく 復習：講義内容の振り返り		
7. 一次救命処置（教：pp112～120）				予習：知らない言葉を調べておく 復習：講義内容の振り返り		
定期試験						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	<input type="checkbox"/> レポート	%	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 80%	<input checked="" type="checkbox"/> その他 20%
	基準等				定期試験	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	内山靖・藤井浩美・立石雅子 編	安全管理学・救急医療学		医歯薬出版	2021	
履修要件等						
オープンな教育リソース						
研究室	1号館4階 第6研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:10～13:00		

科目No	SAS07-4R	授業形態	講義	開講年次	4年次
授業科目名	研究ゼミⅦ	担当教員 E-Mail	各ゼミ指導教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数	履修期間
	ヘルスプロモーション	研究ゼミ		必修 4単位	前期(60h)
教員の実務経験と授業内容の関連					
授業内容の要約	当該科目は、研究ゼミⅥで学んだ内容を教員とともに演習形式により更に深める。機会があればその分野の実務経験を通して専門的なスキルを身につけるとともに、実務上における問題点を発見、分析、解決するスキルや方法を考察する。さらに 実務経験やグループワークを通して自らの専門的スキルを地域社会で活用する方法を検討し、機会があれば試行する経験を積む。				
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の専門性における知識・技能を深く理解する 2. 実務経験を通して、より専門的なスキルを身につける 3. 実践的な経験を客観的に分析できるスキルを身につける 4. 自らの専門的スキルを地域社会において活用し、課題を見つける 				
対面授業の 進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ゼミ毎に演習形式で学修活動を進める 2. 実務経験を伴う学修活動は指導教員の許可を得て、必ず課外活動計画書を提出する 3. 実験を伴う学修活動は指導教員の指導下にて行う 4. 学外にて活動を行う場合は、毎回のレポート提出をもって出席とする 				
遠隔授業の 進め方	Teams やメールなどによる担当教員の指導の下で行う。				
授業計画			授業時間外に必要な学修	○分以上	
1. オリエンテーション 学修目標と報告会のスケジュール確認					
2. ~29. 研究ゼミのスケジュールは、各ゼミによって異なり、学修活動の進展に合わせて動的に見直されることとなる。下記にモデルケースを示す。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献調査 最新の研究動向を文献などにより調査し、研究上の問題点などを抽出する 2. 仮説検証実験 自らが立てた仮説について実験により検証を行う 4. フィールドワーク 地域社会における情報収集を行うために、実際の動向についてのデータ収集を行う 5. インターンシップ 専門的な知識・技能が社会でどの様に活かされているかを実社会現場にて体験する 6. ガーデンメンテナンス イネーブルガーデンの活用計画を立案、実践を行う 			これまで学修してきたことを復習しながら、主体的に目標を達成していく科目であるため、多くは授業時間外学修が主体となる。		
30. 研究ゼミⅦ 実施報告会					

成績評価方法	項目	□小テスト %	□課題・レポート 100%	□定期試験 %	□その他 %
	基準等		レポート内容・課題内容により評価を行う 実施報告会での報告内容により最終評価を行う		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
		ゼミ教員より指定			
参考図書		ゼミ教員より指定			
履修要件等					
オープンな教育リソース					
研究室	各担当教員研究室	オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー		

科目No	SAS08-4R	授業形態	講義	開講年次	4年次
授業科目名	研究ゼミⅧ	担当教員 E-Mail	各ゼミ指導教員		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間
	ヘルスプロモーション	研究ゼミ	必修	4単位	後期(60h)
教員の実務経験と授業内容の関連					
授業内容の要約	当該科目は、研究ゼミⅦで学んだ内容を教員とともに演習形式により更に深める。機会があればその分野の実務経験を通して専門的なスキルを身につけるとともに、実務上における問題点を発見、分析、解決するスキルや方法を身につける。さらに実務経験やグループワークなどを通して自らの専門的スキルを地域社会で活用する方法を試行する経験を積む。				
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の専門性における知識・技能を深く理解する 2. 実務経験を通して、より専門的なスキルを身につける 3. 実践的な経験を客観的に分析できるスキルを身につける 4. 自らの専門的スキルを地域社会において活用し、課題を見つける 				
対面授業の 進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ゼミ毎に演習形式で学修活動を進める 2. 実務経験を伴う学修活動は指導教員の許可を得て、必ず課外活動計画書を提出する 3. 実験を伴う学修活動は指導教員の指導下にて行う 4. 学外にて活動を行う場合は、毎回のレポート提出をもって出席とする 				
遠隔授業の 進め方	Teams やメールなどによる担当教員の指導の下で行う。				
授業計画			授業時間外に必要な学修	○分以上	
1. オリエンテーション 学修目標と報告会のスケジュール確認					
2. ~29. 研究ゼミのスケジュールは、各ゼミによって異なり、学修活動の進展に合わせて動的に見直されることとなる。下記にモデルケースを示す。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献調査 最新の研究動向を文献などにより調査し、研究上の問題点などを抽出する 2. 仮説検証実験 自らが立てた仮説について実験により検証を行う 4. フィールドワーク 地域社会における情報収集を行うために、実際の動向についてのデータ収集を行う 5. インターンシップ 専門的な知識・技能が社会でどの様に活かされているかを実社会現場にて体験する 6. ガーデンメンテナンス イネーブルガーデンの活用計画を立案、実践を行う 			これまで学修してきたことを復習しながら、主体的に目標を達成していく科目であるため、多くは授業時間外学修が主体となる。		
30. 研究ゼミⅦ 実施報告会					

成績評価方法	項目	□小テスト %	□課題・レポート 100%	□定期試験 %	□その他 %
	基準等		レポート内容・課題内容により評価を行う 実施報告会での報告内容により最終評価を行う		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
		ゼミ教員より指定			
参考図書		ゼミ教員より指定			
履修要件等					
オープンな教育リソース					
研究室	各担当教員研究室		オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー	